

中国地方 景気動向アンケート調査結果(2016年5月調査)要約

I. 景気動向について ～景気は弱含みで推移、先行きは厳しい見通し～

- ・企業業績は底堅く、雇用環境は良好、設備投資も堅調ななか、非製造業の景況感は改善したものの、製造業は中国経済の減速や円高の影響に加え、大手工場の一部生産停止もあって4連続の悪化となるなど、景気は弱含みで推移している。
- ・先行き(2～3ヶ月先)の景況感は、為替相場や海外経済の動向が懸念されるなかで、製造業を中心に悪化するとしており、厳しい見通しとなっている。

II. 業績見通し等について ～売上は前年並み、利益は僅かながら減益～

- ・売上は前年並み、利益は僅かながら減益を見込む先が多く、やや慎重な見方が出てきているものの、業績は底堅く推移している。
- ・中国の景気減速により、半数の先で収益に悪影響を受けている。とくに製造業では6割強が悪影響を受けており、前回に比べてその度合いも強まっている。
- ・設備投資については、8割強の先が投資を行うとしており、そのうち3割は昨年度に比べて増加を見込むなど、引き続き堅調に推移するとみられる。

III. 原油・原材料価格、為替相場について ～円高により製造業の半数近くが悪影響～

- ・原油安は製造業、非製造業ともに好影響を受けている。
- ・原材料価格の動向は、製造業、非製造業ともに3割前後の先が悪影響を受けている。
- ・円高により製造業の半数近くが悪影響を受けており、その度合いも強まりつつある。

IV. 雇用状況について ～製造業、非製造業ともに高水準の不足感が続く～

- ・雇用状況は製造業・非製造業ともに高水準の不足感が続いている。
- ・製造業で5割弱、非製造業では7割で人手不足の影響が出ており、そのうち半数近くの先では人手不足が成長を阻害しているほか、一部では事業維持が困難といった深刻な影響も出ている。

V. 農業に関する取組みについて ～今後も合わせると2割強が農業に取組む～

- ・現在取組んでいる先は16.5%、今後取組む先は5.6%。これらを合わせた2割強が現在ないし今後農業に取組むこととしている。
- ・現在の主な取組みは、農業参入、地域農業の振興、農産品の輸送・加工・販売などとなっている。

VI. インターンシップ受入れについて ～6割が受入、今後も増加見通し～

- ・昨年度インターンシップを受入れた先は6割、受入れの大半は、3回以下、受入総数は20名以下、2週間以内となっている。
- ・メリットとして、新卒採用などリクルート関係のほか、社会貢献を挙げている一方、苦心点として、ほとんどの先が「受入れ準備」を挙げている。
- ・今年度は7割弱が受入れを計画しており、昨年度より若干増加。受入計画がない理由として受入準備に関わる問題のほか、製造業では「事故発生時のリスクが大きい」などを挙げている。